

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp

HPサイト http://www.kenpoukaigi.gr.jp

【比例定数削減反対情報】

2012年1月27日

第319号 Tel 03-3261-9007
本号3号 Fax 03-3261-5453

野田首相 比例定数削減法案提出を強弁 国民と国会のパイプを“ムダ”と一施政方針演説

1月24日から始まった第180通常国会（会期末6月21日）冒頭に、野田首相は施政方針演説を行い、「政治・行政改革と社会保障・税一体改革の包括的な推進」のなかで、消費税の増税を口実に、「政治・行政改革を断行する決意」と称して国家公務員の給与の引き下げを断行するとともに、「政治家自身が身を切り、範を示す」として、「衆議院議員の定数を削減する法案を今国会に提出すべく民主党として準備している」「この国会で結論を得て実行できるよう、リーダーシップを発揮してまいります」とのべました。

国会議員の議席を“私物”であるかのようにとらえ、衆議院での選挙制度をめぐる協議会の議論で、民主党を除くすべての党が小選挙区制の弊害を述べ、民意反映の選挙制度への抜本改革が必要である、と一致していることなどいっさい眼に入れない強権的な“宣言”です。

民主党の「比例80削減」に「反対」と各党 「抜本改革が必要」と7党が主張

衆院選挙制度に関する各党協議会(1/25)

衆院選挙制度に関する各党協議会が、1月25日開かれました。昨年8回にわたって開かれていたものです。

樽床伸二座長（民主党幹事長代行）は、小選挙区の区割り見直しを先行させ、抜本改革を先送りするとして昨年11月の提案を撤回、民主党が決定した小選挙区「0増5減」、比例定数80削減の2つの法案を「参考にしてほしい」と提示しました。その上で、協議会の進め方について、「格差是正・抜本改革・定数削減の3つの同時決着をはかる進め方に変更したい。2月25日をメドに全力でやりたい」と述べました。

これに対して、各党代表は「これまでの8回の協議はなんだったのか」と、一方的に比例80削減法案を決定した民主党のやり方を厳しく批判しました。日本共産党、公明党など7党は、「民意をゆがめる制度の抜本改革こそ必要だ」と共通して主張しました。

日本共産党の穀田恵二国対委員長は「これまでの協議では、民主党以外のすべての党が、現行の小選挙区並立制が民意をゆがめていることの認識を共通して示し、民意を正確に反映させる選挙制度への抜本改革が議論になってきた」と指摘。樽床氏が「定数削減の一点張りでやる」と発言していることに触れ、穀田氏は「民意を反映させる制度を議論しているときに、比例代表を大幅に削るのは少数政党を締め出し、民意の反映を否定するもので、議会制

民主主義を壊すものだ」と批判。同時に、「比例定数削減を消費税増税への地ならしとして位置づけ、国民に大增税を押し付けるのはまったくの筋違いで、すり替えだ」と述べました。

さらに、穀田氏は「議員の定数削減は反対だ。議席は、政治家の“持ち物”ではない。議員は、憲法に規定されているように、主権者国民の代表だ。民意をつなぐパイプを細くすることは認められない」と強調しました。

公明党の東順治氏は、「比例 80 削減は、民主主義に逆行するもので断固反対だ。どの世論調査をみても、7割の人が抜本改革を求めている。この声にこたえるべきだ」と述べました。自民党の細田博之氏も「比例 80 削減は、公約だからと言ってこのような案を提案することは断固反対だ。あまりにも民主主義に反する」と指摘しました。

協議会は今後、毎週水曜日 11 時に開催することが確認されました。(2月25日までの日程は2月1日、8日、15日、22日の4回)

期待と注目集める

「2・2 院内集会 & 議員要請」

会場は 300 人、衆院全員に要請予定

「2・2 院内集会 & 議員要請」(主催:11 団体＝憲法会議、自由法曹団、新婦人、全学連、全商連、全労連、東京地評、農民連、婦人民主クラブ、民医連、民青同盟〔50 音順〕)は、代表質問など国会の初盤にかみあった重要な時期・内容の取り組みとなっています。大会議室は定席 300 人の会場です。衆議院議員全員に要請する計画となっています。

口頭で、チラシを渡して、誘い合わせて、会場を一杯にしましょう。
(チラシデータを再度添付します。)

「身を切る」を斬る！小選挙区制はもういらない！比例定数削減反対・民意が届く選挙制度で国民の声を国会へ！

2・2 院内集会 & 議員要請

2月2日(木)午後1時～ 衆議院第1議員会館大会議室
比例定数削減反対の署名を持ち寄り、議員への要請をします。
主催:11 団体